



大堀小学校

双葉郡浪江町大字小野田字仲禅寺 134



大堀相馬焼の伝統を生かす 地域ならではの教育

大堀小学校は、1873（明治6）年に小野田小学校として創設され、1893（明治26）年に大堀尋常小学校と改称されました。1993（平成5）年に新築された校舎は昇降口に吹き抜けのホールや広い多目的スペースがありました。大堀地区は伝統的工芸品「大堀相馬焼」の産地であり、校舎の至るところには大堀相馬焼の特長が生かされ、特に図工室には陶芸にかかわる多くの道具があった他、校舎の外には立派な焼き窯が設置されていました。地区の特色を生かす教育が、地域の皆さんの協力を得ながら行われていた小学校でした。

校歌

作詞/齋藤 一夫 作曲/冨沢 功

1. むかしから そのむかしから 学校の
やねも お空も つんぬいて
大きくのびた かきの木は
みんなの そだつ 目じるしだ
2. 遠い道 夕やけ雲の お山から
海までつづく たかせ川
あゆも かじかも かにさんも
みんな なかよい おともだち
3. おじいさん おとうさんも かあさんも
べんきょうしたのは この学校
わたしも あなたも あとついで
みんなで ぐんぐん のびるのだ

沿革

明治 6年 7月	標葉郡小野田村清水寺内に小野田小学校創設	昭和51年 12月	プール・体育館建設
7年	標葉郡谷津田に分教場設置	55年 5月	柿の木移植
14年 8月	小野田小学校新築、谷津田小学校を合併	61年 2月	記念植樹並びに晩翠の碑周辺整備 (山下泰裕先生並びに田中慶秋先生寄贈)
26年 7月	大堀尋常小学校と改称	62年 3月	三程分校閉校
35年 4月	三程分教場設置	平成 2年 8月	県P白河大会で優良PTA表彰
44年 4月	小野田字仲禅寺地内に改築移転 大堀村全児童を収容し、本校7学級、分教場1学級を編成する	4年 3月	校舎改築事業外構整備
大正 4年 11月	三程分教場新築（南申瘤2）	5年 11月	新校舎落成（鉄筋2階建て）
15年 4月	大堀尋常小学校三程分教場と改称	10年 12月	校庭整備
昭和16年 4月	大堀村国民学校と改称	15年 8月	校庭芝生化
22年 4月	大堀村立大堀小学校と改称	16年 10月	郵政公社優良子ども郵便局表彰（総務大臣特別賞）
30年 4月	浪江町立大堀小学校と改称	19年 1月	相撲土俵寄贈
33年 9月	学校給食実施	21年 3月	新校旗購入
35年 2月	校歌制定（作詞／齋藤一夫 作曲／冨沢 功）	23年 3月	東日本大震災および原発事故のため臨時休業
36年 3月	保健体育研究優良校として県表彰受賞	23年 4月	重要書類、PC等持ち出し
40年 3月	新校舎改築第1期工事落成	23年 7月	卒業証書授与式実施（福島県男女共生センター）
41年 12月	新校舎改築第2期工事落成	25年 5月 ～7月	私物引き渡し
43年 11月	文部省都道府県教育長後援学研教育賞受賞	25年 9月	宅配便による返却実施
44年 3月	訓えの碑除幕	29年 11月	校舎内整理実施
46年 11月	LPG焼窯設置	30年 11月	大堀除草の実施
48年 4月	三程分校5・6年本校に合併	31年 3月	休校
48年 12月	創立百周年記念祝典	令和 2年 7月	大堀小学校見学会を開催
		3年 3月	閉校

「ふるさと追想」

浪江のこころ通信

令和2年広報なみえ
10月号より抜粋



世界に目を向けながら、地方で活躍できる人になりたい

小野田 恵佳さん（大学3年）

震災の時は小学5年生でした。当日は車中泊。県内外の各地を転々として、今の二本松市の家に落ち着きました。ずっと生活するだけで精一杯でしたが、二本松市立東和中学校で学級委員に立候補したことがきっかけで変わりました。高校では生徒会役員や部活動の部長を経験し、人としてリーダーとして徐々に自信を持つことができました。高校1年生の頃までは、JICA（国際協力機構）のように、世界で誰かを救える人になりたいと考えていました。大学生になると、世界で起こっている出来事に目を向けながら、福島や浪江町で活躍したいと思うようになりました。浪江町の道の駅に家族と行って見たのですが、温かみを感じて、地方で活躍したいという思いを強くしました。

震災前の学校の風景



鼓笛パレード



遠足風景



運動会・大堀の旗



旧校舎



学習発表会



震災前の校舎



農業体験

震災直後の記録とその後

校内放送により一次避難（机の下）し、次に非常階段から校庭に避難しました。子どもたちは私語もなく指示に従って避難。防寒着も持たず上履きのまま避難した児童も多かったので、揺れが収まるのを待って、取りに行きました。怖がって泣く子には、担任や友達が寄り添い、励まし合いました。毛布、ブルーシート、運動用マットなどを運び出し、寒さ対策をとりながら、児童の家族に迎えに来るように連絡。無事に引き渡しました。

その後、原発事故に伴い、子どもたちは県内外に避難。県内各地で「震災後交流会」などが催され、子どもたちは旧交を温め、会話が弾むひとときを過ごしました。

校舎は体育館の一部が壊れたものの、教室等はきれいに片付けました。校舎周辺は表土の除染が行われ、いったんはきれいになったものの、使われることのない校舎周辺は野生動物に荒らされてしまう状況となりました。



ホールにある陶板画



震災後交流会（猪苗代町）



校舎内（震災後）



会話が弾んだ震災後交流会



荻野小学校

双葉郡浪江町大字荻宿字鹿畑 16



地域の方々の胸に残る 庭園・木々の素晴らしさが誇り

荻野小学校は、1873（明治6）年に創立されました。震災時の校舎は1982（昭和57）年に建築されましたが、階段には1階から3階までの窓が設置されており、当時としては画期的な建築でした。荻野小学校の特徴は校舎周辺の庭園・木々の素晴らしさでした。古くは1971（昭和46）年から福島県学校環境緑化コンクール国土緑化推進委員長賞を3年連続受賞。1989（平成元）年には緑化功労内閣総理大臣賞の栄誉を得ました。しかし残念ながら今は面影をかすかに残すだけになってしまっています。2017（平成29）年度には学校見学会が実施され、多くの地域の方々が訪れメッセージを残してくれたことは、荻野小学校への思いが地域の方々の心に残っているからでしょう。

校 歌

作詞/長浜 久雄 作曲/天野 秀延

1. 荻野の空の 朝霞
若い光よ わたしらは
学びのめあて 一すじに
明るく清く 美しく
花とかがやけ 荻野小
2. 鹿畑の つばくらめ
若い力よ わたしらは
つばさの限り 今日をとぶ
正しく強く すこやかに
高くはばたけ 荻野小
3. 室原川の ねこやなぎ
若い仲間よ わたしらは
遊びのなかに 手をつなぐ
やさしく直く 元気よく
日日にのびゆけ 荻野小

沿革

明治 6年 6月	荻野村鹿畑に谷英小学校として創立 (初代校長 荻宿俊昌氏)	昭和51年 7月	プール設置工事が完了
7年 7月	荻宿、室原、立野、酒田、加倉の五カ村を学区とし、 荻宿小学校と改称	52年 4月	愛鳥モデル校に指定
20年 4月	学制変更と共に荻宿尋常小学校と改称	54年12月	花いっぱい花壇コンクール特選受賞
20年 7月	町村制を実施。町村分合、西台、藤橋を併せて荻野 村と改称	57年 3月	校舎改築第一期工事が完了
20年 9月	幾世橋、浪江、大堀、荻野の4カ村組合をもって高 等小学校を浪江尋常小学校内に置き、北標葉高等小 学校と改称	58年 3月	校舎改築第二期工事が完了
20年12月	高等科を併置し、校舎を改築し、荻野尋常高等小 学校と改称	59年 3月	体育館新築工事が完了
昭和16年 4月	荻野村国民学校と改称	60年 3月	造園工事 (PTA 奉仕) 完成
17年 5月	講堂建築着工、昭和19年3月竣工	60年 6月	運動場並びに庭園芝張り (PTA 奉仕) 完成
22年 4月	学制改革により福島県双葉郡荻野村立荻野小学校 と改称	61年10月	第37回福島県学校環境緑化コンクール県教育長賞 受賞
27年 1月	家老分校新設開校	62年10月	第38回福島県学校環境緑化コンクール県教育長賞 受賞
31年 5月	町村合併により福島県双葉郡浪江町立荻野小学校 と改称	63年10月	第39回福島県学校環境緑化コンクール県知事賞受 賞、福島県民友新聞社長賞受賞
35年 3月	校歌を制定	平成元年 7月	緑化功労内閣総理大臣賞受賞
40年 3月	家老分校廃校	11年 9月	校庭全面改修工事
46年 4月	荻野中学校が浪江中学校と統合するに伴い、大字荻 宿野鹿畑16番地へ学校移転	12年10月	福島県小学校教育研究会体育科部会で授業公開
46年 9月	給食室を新築竣工	14年10月	全国学校体育研究優良校表彰
46年11月	福島県学校環境緑化コンクール国土緑化推進委員 長賞受賞	17年 4月	学校評議員会を設置
46年12月	全国花いっぱいコンクール優良賞受賞	23年 1月	太陽光パネル設置工事が完了 (体育館)
48年12月	福島県民友花壇コンクール特選、民友新聞社賞受賞 創立百周年記念式挙行	23年 3月	東日本大震災および原発事故のため臨時休業、避難 所として使用 (～12日まで)
49年10月	福島県緑化コンクール県教育長賞、NHK 福島放送 局長賞受賞	23年 4月	二本松市旧木幡二小で学校機能を再開。 学校は臨時休業
50年11月	福島県緑化コンクール県知事賞、民友新聞社長賞受賞	28年 8月	児童へ震災当時の私物引渡を実施①
51年 5月	全国植樹祭において福島県緑化コンクール文部大 臣賞、農林大臣賞、NHK会長賞受賞	28年12月	児童へ震災当時の私物引渡を実施②
		29年 8月	学校見学会を実施
		31年 3月	休校
		令和 2年 7月	教育委員会、PTAによる荻野小学校見学会を開催
		3年 3月	閉校

「ふるさと追想」

浪江のころ通信

平成 23 年広報なみえ
10月号より抜粋



たくましくなった孫。そしてふるさと浪江を思う

根本 昌幸さん

震災時、荻野小学校に通っていた孫の郁弥も無事に帰宅し、それから愛犬を伴って全員で津島の避難所に行きました。配られる小さなおにぎりや4人で1個のメロンパンを分け合って食べました。その大変な体験と、避難先の福島での生活を経験した孫は、たくましくなったように感じます。避難するたびに転校することになった孫はかわいそうでしたが、今では野球を頑張っています。

私も妻も詩人としての活動が長いのですが、これから私が作詞した「ふるさと浪江」のレコーディングがあります。私の中では浪江は、いつまでも美しいふるさとのままです。まだ無残な状態の浪江を見たくありませんが、落ち着いたら墓参りをしに一時帰宅したいと思っています。

震災前の学校の風景



鼓笛パレード



運動会



かのはた祭りしめ縄づくり



学習発表会



農業体験



旧校舎



プール開き

震災直後の記録とその後

発災は3月11日の14時46分でしたが、児童は13時半に既に下校していました。職員室にいた教職員は校庭へ避難。安否確認後、被害状況を確認。体育館に避難所を設営。次第に地域住民が集まってきました。防災無線で津波が来ていることを知りましたが、その後停電。電話の不通により情報が入らなくなりました。

翌朝から、バスにて津波被災者、役場付近に住む車のない方、双葉町民、東電職員等最大600人ほどが避難してきました。同日21時頃、自衛隊トラックにより避難者が津島地区へピストン輸送されました。

その後、3月中は安否確認、避難先調べが続きました。

震災後年月が経つと、幾度も緑化コンクールで表彰を受けた校庭周辺の庭園、木々も一部は枯れ、野生動物(イノシシ等)の被害を受け、ほとんど面影がない状況になってしまったのは非常に残念です。2016(平成28)年には学校の除染が行われ、児童への私物引き渡し、震災後の片付けも終了し、児童を受け入れる準備を整えていました。



緑化コンクールの受賞碑



図書室(震災後)



学校の思い出(震災後)



学校の思い出(震災後)